10

No.

11. 4. 14

664

大正11年4月10日

第貳拾四回報告

一、八幡製鉄所三月廿一日ニ終ル一ヶ年間ニ於ケル自然陶汰職工数差引千七百二十名ニシ本年四月一日次後百二名採用セリ傳聞スルニ高級者ニ職首シ低級者ヲ以テ埋合セシタル職工数ハ二千百六十名ナリト云フ　牧関切抜

二、同上ノ二工場ハ半減シテ立腐シノ姿　牧関切抜一

三、同上ノ職工恩給未解決　仝

四、長崎三菱造船所不景氣　仝

五、佐世保工廠職工満期退去式　仝

六、仝　上家族共励會現況　仝

七、大分縣ノ職工教養　仝

（北九州炭坑夫教養ニ御採用アリテハ如何）　仝

八、福岡市職業紹介所ノ本年一月ヨリ三月迄ノ現況　仝

九、福岡ニテ川崎造船ノ松方幸次郎氏演ル　仝

(甲)

2.

給料を上げなきや九十七船から降りつちまうぞ

悠紀丸船員同盟罷業

門司での船員爭議嚆矢

兵庫辰馬汽船會社所有船悠紀丸一千九百八十七噸は去る十四日午前の島船渠を出渠し十五日午前八時門司に入港大阪商船會社の傭船として空船の儘同日午後四時大連に向ふ筈であつたが入渠中から船員の間に不穏の徴あり船長三隅稔太郎氏は夫れとなく警戒し居たが門司出帆間際に至り船員一同は甲板上に集まり船艙の機能を停止し船長の鋼撫をも肯ぜず却つて反抗の氣勢を示して就職せず爲めに豫定の時間に至つても出帆する事が出來ず今朝港内に碇泊して居るが同盟乘組高級船員は十名下級船員は三十名で給料の三割値上げを要求し若し聽き容れられぬ場合は一同顔を連らねて退船するの外はないと船長に迫り諾否の回答を求めたので船長は直に其の旨兵庫の辰馬汽船本社に電報し一同諾否の返答を待つて居るが未だ何等の回答に接して居ない從つて結果如何に依つては一騒動持上がる形勢で門司港としては此の種の罷業沙汰は之れを以て嚆矢とする由である